

障害者雇用で連携協定

春日井市とエスプールのプラス

【春日井】春日井市はこのほど、障害者雇用支援事業を手掛けるエスプールのプラス（本社東京）と、障害者の就労促進と企業の障害者雇用の確保に関する協定を締結した。同社と自治体との連携は、豊明市とみよし市に次いで全国で3例目。エスプールのプラスは6月

をめどに、春日井市神屋町に障害者専用の企業向け貸し農園「わーくはびねす農園」を開設する。障害者雇用を希望する企業に貸し出し、雇用する障害者の採用支援も行う。農園を利用する企業や就労する障害者は、市内の企業や市民を優先。市は同農園の運営に協力する。



協定を締結した伊藤市長（右）と和田社長

開設する農園は、敷地面積約1万平方メートルにビニールハウス4棟を建て、ハウスを区分けして企業に貸し出す。土や農機具を使わない養液栽培で、約40種類の野菜や果物を栽培する。

企業は農園の利用

料と、雇用した障害者1人当たり10万円程度の給料を負担する。収穫物は販売を目的とせず、福利厚生や障害者への理解を深めることを目的に、社内配布を勧めるといふ。

同農園の開設により、75人の障害者と就労をサポートする人材35人の雇用を見込んでいる。

春日井市役所で行われた締結式には、春日井市の伊藤太市長とエスプールのプラスの和田一紀社長が出席した。

伊藤市長は「障害者の雇用は誰もが必要性を認めている。働く場が春日井市で生まれることは大きな意義がある」とあいさつ。

和田社長は「市と密に連携し、1人でも多くの障害者雇用を創出していききたい」と語った。